

第 10 回九州地域医療教育研究会に参加しました。

2024 年 5 月 11 日、沖縄県立博物館・美術館にて第 10 回九州地域医療教育研究会が開催されました。地域医療学センターからは、宮崎、上田、塩田、川崎の各氏と医学科 4 年生の内田くん、西島くん、長谷川さん、姫路さんが参加しました。コロナ禍により 2020 年から中止となっていたため、5 年ぶりの開催となりました。

基調講演は、九州地域医療教育研究会会長で鹿児島大学病院地域医療支援センターセンター長の嶽崎俊郎先生による「九州地域医療教育研究会の歩みと展望」という題目で行われました。「懇親会などの学会以外の機会で見えてくる人柄がある」という言葉が印象的であり、顔を合わせて交流することの重要性を再認識する機会となりました。

「心に残った地域医療・臨床実習・その他の活動を共有する」と題した学生セッションでは、5 大学 7 人の学生が自身の地域医療・臨床実習の経験について報告しました。地域医療特別実習や教授の当直同行、「研修医 0 年目」と言われる LIC への参加経験、地域卒学生同士の討論内容、離島での地域医療実習での取材内容など、各々が貴重な体験を共有しました。地域卒学生の不安や本音を表出させ、さらなる交流の必要性を感じたという感想や、実際の医療現場を見て医師に求められるスキルの認識や覚悟・意欲が向上したとの声が寄せられました。

メインシンポジウムは、「ポストコロナ時代の地域医療教育 ～協調を考える～」というテーマで 6 つの実習施設がそれぞれの地域医療実習の工夫や今後の展望について発表しました。大分大学からは塩田が「大分大学におけるコロナ前後の地域医療実習」という題目で発表しました。大分大学では、コロナ禍においても地域医療実習を中断せずに継続したことを強調しました。医学生が実際の医療現場で経験を積むことが医師としての資質を向上させる重要な要素であり、COVID-19 感染予防を現場で実体験させる絶好の学習機会であることを述べました。総合討論では、地域医療教育における多職種との協調、医療機関同士の協調など、教育における協調の重要性が議論されました。

懇親会では、他施設や他業種の方々との交流を通じて異なる視点からの考え方を学ぶことができました。学生たちも学生同士で地域医療について語り合い、将来の日本の地域医療の明るい未来を感じることができました。

以下にそれぞれの学生さんの感想を示させていただきます。

A さん

今回、九州地域医療教育研究会に参加させていただき、様々なことを学んだ。特に学生発表では、同世代の学生がどの様に地域医療と向き合っているのかを肌で感じた。それぞれの大学の学生が、違った方法で積極的に地域医療や医療現場で働くことに向き合っていた。その一方、私はまだポリクリにも出ておらず、医学生として医療と向き合うことへの気持ちがまだまだ足りていないと実感した。また、メイン

シンポジウム内の討論でも、学生の積極性について言及があった。この討論では、ポストコロナで必要とされることについて様々な先生方が意見を述べていらっしやった。ポストコロナである現在、積極性を始めとし私達学生に足りていない部分がまだまだあると気付く場面が多く見受けられた。これから実習に臨む学年である私たちは、気持ちを引き締めて取り組んでいく必要があると感じた。

Bさん

今回、地域医療教育研究会に初めて参加した。各県の先生や学生の地域枠、地域医療の意見などを聞くことができた。特に、学生の発表はすごいと思った。同じ学生なのに、意識が高く病院でほぼ医師みたいな感じで頑張っている学生もいた。そんな学生の話聞いて、ただ授業を聞いて、ただ部活をして、ただバイトをしている自分が少し情けないような気がした。でも、まだ学生生活も残っているので、今のうちにこのような気持ちになれたことをチャンスと捉えて、これからの学生生活を頑張ろうと思えた。また、九州各県の地域医療に対する意見やよりよくしていこうという気持ちに感銘を受けた。自分が地域枠ということもあり、大分県の地域医療には少なからず関わることは確定している。そんな中で、いろんな県で地域医療をより良くしていこうとする姿勢を見て、自分も貢献したいという気持ちが高まった。この学会を通して、自分の意識を高めることができたので参加して良かったと思う。

Cさん

今回、九州地域医療教育研究会に同行させて頂いたが、私は同行する前に、このような教育面での各大学間の討論や情報共有を行っていることを知らなかった。大分大学のみでなく、各大学がその地域の特色やニーズに合わせた取り組みを行っていることを学べた。他大学で行っている取り組みを共有したり、学生の声を実際に聞いたりする事で、よりよい地域医療教育へ繋げているのだと感じ、こうした取り組みによって成り立っている教育や実習に感謝しながら、より多くのことを学び、実りのある実習にしていきたいと思った。

またこの学会の中で、同じ学生としての発表を聞いた事が1番印象に残っている。実際に地域に行っただけで感じた素直な感想や、住民との触れ合い、医師として必要だと感じたスキルや覚悟、意欲の向上などを聞き、たくさんの刺激を得ることが出来た。私も今後受け身ではなく積極的に地域医療実習に取り組み、自ら学んでいく姿勢を持ちたいと感じた。

この学会で受けた刺激を忘れずに、今後始まるポリクリに繋げていければ思う。

Dさん

今回の九州地域医療教育研究会では、地域医療にフォーカスした内容で非常に勉強になりました。特に離島医療の特徴や離島を活用した研究人材育成のお話は、普段の臨床医学の授業ではあまり聞くことが少ない分野であり、しかしながら無視することは出来ない大切な分野でした。

また学生セッションでは、九州の他大学の地域枠学生が実習に参加した時の話や、参加して感じた印象を聞くことができました。私は一般枠学生ではありますが大分県出身なので、地域医療は以前から興味のある話題でした。将来は総合診療を勉強したいと考えており、就職も大分県内を考えているので、これからも積極的に地域医療、離島医療の知識や経験を身に付けていきたいと考えました。



文責 塩田星児